

## 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立下呂特別支援学校

学校番号	118
------	-----

### 自己評価

学校教育目標	・地域社会で主体的に生活する力を育てる
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「保護者、地域との連携」「研修（資質向上の取組）」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>・アンケートでは、全ての項目で概ね良好な回答を得ており、A評価が昨年度に比べ高くなっている。感染対策を講じながら授業参観や懇談等を実施でき、保護者と対話する機会が増えたことが高評価につながったと思われる。特に、昨年度評価が下っていた「個に応じた教材・教具」や「将来を見据えた知識・技能・態度の育成」、「地域での活動の参加」の評価が上がっており、理解を得られた取組をさらに検討し、改善を図っていく必要がある。一方で、いじめへの対応やPTA活動に関する項目について「わからない」の回答が多くなっている。学校の取組が十分に伝わっていないと考えられるため、周知の方法を検討する必要がある。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を講じ、やり方を工夫しながら地域との交流活動や体験的な活動を進めていく。</li> <li>・ICTを含めた個に応じた教材・教具の工夫を主軸にした授業研究等により、主体性を大切に授業づくりに取り組む。</li> <li>・学校の取組についてホームページ等を活用し、タイムリーに発信する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育やキャリア教育の視点で地域交流を進められるように、キャリア教育部に地域交流（縁 Join 活動）を位置づける。</li> <li>・研修部を中心に研究授業等による授業交流や教材・教具の共有化を進める。</li> <li>・ICT教育部の職員を各学部配置し、ICT機器の積極的な活用を進めるとともに、職員のスキルアップを図る。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部のキャリア教育部を中心に、地域資源を活用し、内容や方法を工夫しながら、可能な範囲で対面での活動や体験的な学習活動を計画、実施する。</li> <li>・2つの教科・領域を研究の場とし、小学部、中学部、高等部を合わせた縦割りグループで授業研究等を行い、教材・教具の改良や授業改善につなげる。</li> <li>・ICT教育部と研修部が連携し、ICTに関する職員研修を計画、実施する。</li> <li>・学校行事やPTAの取組をホームページやオンラインを活用して発信する。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別懇談等での保護者からの意見や感想</li> <li>・学校運営協議会や地域等からの意見</li> <li>・活動の実施状況や実施後の反省、評価</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部の読み聞かせの会、中学部の染色家との染色体験では、絵本や手元を拡大提示する工夫により密を避け、対面で地域交流を実施できた。互いの表情を見ながら積極的にやりとりをすることができた。</li> <li>・高等部では、地域で働く方の話を聞く機会をもったり、養蚕体験をさせていただいたりするなど、様々な視点から地域について知ることができた。また、地域のイベント等で「湯ヶ峰太鼓」を披露する機会が増えた。</li> <li>・授業研究では、グループ毎に活発に意見交流が行われ、使用した教材・教具について、データ上で分類・整理して共有化を図ることができつつある。</li> <li>・職員のニーズをもとに、ICTに関する研修会を実施し、動画編集やホームページ投稿やアンケートフォーム作成等について研修した。</li> <li>・PTA総会や学校行事等をオンライン配信することで、参加者の拡充を図った。また、学校や学部の取組を定期的にホームページに投稿した。</li> </ul>

評価の視点	評価
① 地域資源を活用した教育活動を工夫し、児童生徒が主体的に仲間や地域と関わる活動に参加している。	A (B) C D
② 積極的に意見交流し、児童生徒の主体性を大切にした授業づくりができています。	A (B) C D
③ 本校の教育活動を、保護者や地域にタイムリーに発信している。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○キャリア教育部が窓口となり、各学部で積極的に地域交流を進めることができた。安全な学習環境や活動方法に配慮することで、対面でのやりとりや実体験を積むことができ、児童生徒の地域への親しみや理解が深まっている。</p> <p>○教材・教具の研究は教師のニーズに添っており、活発な意見交流ができた。学部の枠を超えたグループ討議により、他学部の視点から意見を得ることができた。</p> <p>○ホームページが充実し、活動が分かりやすいとの声が聞かれた。</p> <p>○生徒の出欠席連絡や保護者向けアンケート調査等、ICT活用の幅が広がった。</p> <p>▲キャリア教育の視点を意識し、小学部から高等部まで系統性をもって地域交流（縁Join活動）を計画、実施できるとよい。</p> <p>▲教師の専門性の向上を目指し、多面的な実態把握や個に応じた指導、将来を見据えた力を育てるためのキャリア教育などについて研修を深める必要がある。</p> <p>▲学習効果を踏まえたICT活用ができるような教員のスキルアップとともに、著作権や情報モラルについての研修が必要である。</p> <p>▲いじめへの取組やPTA活動について、議事録的なものだけでなく具体的に分かりやすく周知する必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育年間計画に地域交流（縁Join活動）を位置づけ、学部の系統性を図りながらふるさと教育を進める。また、年間計画を踏まえたキャリアパスポートを作成し、家庭と共有しながら効果的な活用を検討する。</li> <li>・研修部と他分掌が連携し、障がいの理解、キャリア教育、個に応じた教材・教具の工夫等について職員研修会や授業研究会等を設定する。</li> <li>・教師のICTリテラシーの向上を図るための研修により、著作権や情報モラル、個人情報への意識を高め、保護者にも啓発していく。</li> <li>・教材・教具の共有化（データベース化）については今後も進めていき、校務の効率化につなげる。</li> <li>・いじめへの対応については、方針や取組が分かりやすく伝わる資料づくりを検討し、適時に生徒指導通信を発行する。また、PTA活動についても、学校通信の中で写真等を用いて具体的に伝えていく。</li> </ul>

### 学校関係者評価（令和5年2月14日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策など規制の多い中で、工夫しながら地域との交流活動が行われている。今後、規制が緩和され、地域と触れ合う機会が広がり、コミュニケーションの力も育まれるとよい。</li> <li>・個に応じた教材・教具の工夫について、授業参観をした際に実際に見て知ることができた。保護者参観等を通して理解が進んでいくとよい。</li> <li>・得意なこと、できることをさらに伸ばしていけるような教材・教具が工夫できるとよい。</li> <li>・ホームページが拡充し、外部の人も学校の教育活動が分かりやすくなった。</li> <li>・いじめに関する取組等については、ホームページや通信の発信とともに、保護者懇談の機会に話題にあげて、理解を進めていけるとよい。</li> <li>・自分たちもできるんだという自信をもって地域社会で主体的に生活できることを願っている。</li> </ul>
---